

授業科目	看護学概論Ⅰ	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護実践に必要な諸概念について理解する。					
2. 看護の歴史から看護の役割と機能が社会のニーズに沿って変化することを理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	Ⅰ. 看護とは 1. 看護の定義 2. 看護の目的 3. 看護の対象 4. 看護の場 5. 看護の役割と機能				講 義
2	Ⅱ. 看護の歴史 1. ナイチンゲール以前の看護(近代以前の看護) 2. ナイチンゲールによる近代看護 3. 日本の近代看護(職業としての看護) 4. 太平洋戦争後の看護の歴史				講義・演習
3					
4	Ⅲ. 人間の理解 1. 人間とは何か 2. 生命体と生活体 3. 人間の基本的欲求 4. 人間と環境 5. 発達理論 6. 人間の心理行動				講 義
5	Ⅳ. 健康 1. 健康の概念 2. 健康の実現 3. 健康に影響する要因 4. 現代生活における健康問題				講 義
6	Ⅴ. 環境 1. 環境とは 2. 看護理論家がとらえた環境の概念 3. 病者の生活環境と看護の役割				講 義
7	Ⅵ. 看護の理論 ナイチンゲール、ヘンダーソン、ペプロウ、オレム、ロイ				講義・演習
	筆記試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
1. 茂野香おる他:専門分野Ⅰ 看護学概論, 医学書院, 2023.					
2. フロレンス・ナイチンゲール, 湯槇ます訳:看護覚え書, 現代社, 2022.					
3. ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版社, 2021.					
【 評価方法 】					
レポート 30点					
筆記試験 70点					

授業科目	看護学概論Ⅱ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護の対象を生活を営む者として幅広く理解できる。					
2. 看護の対象の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解できる。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	Ⅰ. 看護の対象 1. 人間とは(人間に関する理論) (ホメオスタシス、ストレス、コーピング理論、マズローの欲求段階説、危機理論) 2. 生活者としての人間				講義
2					
3	3. 各期の発達段階の特徴				演 習
4	Ⅱ. 看護実践における法律と倫理 1. 法と倫理の違い 2. 看護に関する法について 1)法の種類 2)看護六法 3)保助看法				講 義
5	4)保助看法施行令・施行規則等 5)看護師等の人材確保の促進に関する法律 6)医療法 7)その他の法律				講 義
6	3. 看護における倫理 1)看護倫理を学ぶ意義 2)看護倫理の歴史 3)看護の倫理原則 4)看護実践上の倫理的概念 5)看護実践と倫理				講 義
7	4. 専門職の倫理 看護者の倫理綱領				演 習
8	5. 倫理的問題へのアプローチ 1)看護実践における倫理的問題の特徴 2)倫理的問題へのアプローチ				講義・演習
9	Ⅲ. 健康を守るためのヘルスケアシステム 1. 保健・医療・福祉の理念とその関係 2. 保健・医療・福祉の提供システム				講 義
10	3. 保健・医療・福祉チーム 1)保健・医療・福祉チームの職種 2)保健・医療・福祉チームの連携と協働				講 義
11	Ⅳ. 看護サービス 1. 看護業務(看護業務基準) 2. 看護過程 3. 健康レベルに応じた看護 4. 看護方式 5. 継続看護				講 義
12	Ⅴ. 看護をめぐる制度と政策 1. 医療保険制度(診療報酬) 2. 看護の人員配置基準と看護サービスの評価				講 義
13	Ⅵ. 看護研究の基礎 1. 看護研究の基礎知識 1)看護研究の意義・目的 2)研究成果の活用				講 義
14	Ⅶ. 医療安全 1. アクシデント・インシデント 2. ヒューマンエラーと医療事故 3. 看護業務の特性と医療事故 4. 医療事故防止対策				講義・演習
15					
	筆記試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
1. 茂野香おる他:専門分野Ⅰ 看護学概論, 医学書院, 2023.					
2. 看護六法 2023年版					
3. 宮坂道夫:別巻 看護倫理 第2版 医学書院 2023.					
【 評価方法 】					
筆記試験 100点					

授業科目	看護の方法Ⅰ	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	2単位 45時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護技術とは何かを理解する。					
2. 各看護学の実践の基盤となるコミュニケーション・感染予防・観察・フィジカルアセスメントの技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	看護技術概論	1. 看護技術の特徴 2. 看護技術の構成 3. 看護技術を適切に実践するための要素			講 義
2	コミュニケーション	1. コミュニケーションの基礎知識 1)コミュニケーションの意義と目的 2)コミュニケーションの構成要素と成立過程 3)言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション			講 義
3		2. 関係構築のためのコミュニケーションの基本			講 義 演 習
4		3. 効果的なコミュニケーションの実際 1)傾聴の技術 2)情報収集の技術 3)説明の技術 4)アサーティブネス			講 義 演 習
5		4. コミュニケーション障害への対応 5. オンラインコミュニケーション			講 義
6	感染予防の技術	1. 感染の定義 2. 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3. 感染経路別予防策			講 義
7		演習:手洗い、個人防護具の着脱			演 習
8		4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作 6. 感染廃棄物の取り扱い 演習:無菌操作			講 義 演 習
9		無菌操作の実際 (演習 1時間)			演 習
10		無菌操作技術試験(1時間)			技術試験
10	ヘルス アセスメント	1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1)問診(面接)の技術 2)健康歴の聴取 3)観察の視点 4)セルフケア能力のアセスメント 5)情報の整理			講 義 演 習
11		3. フィジカルアセスメントに必要な基礎技術 1)視診の技術 2)触診の技術 3)聴診の技術 4)打診の技術 4. 全身状態・全身印象の把握 5. バイタルサインの観察とアセスメント 1)体温			講 義
12		2)脈拍 3)呼吸			講 義 演 習
13		4)血圧			講 義
14		血圧測定の演習(触診法、聴診法)			演 習
15		5)意識			講 義
16		バイタルサイン測定技術試験(1時間)			技術試験
17		6. 身体計測			講 義 演 習

授業科目	看護の方法Ⅰ	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	2単位 45時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護技術とは何かを理解する。 2. 各看護学の実践の基盤となるコミュニケーション・感染予防・観察・フィジカルアセスメントの技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
18	ヘルス アセスメント	7. 系統別フィジカルアセスメント 1)呼吸器系のフィジカルアセスメント 演習 ①胸郭の可動性の触診 ②正常な呼吸音の聴診			講 義 演 習
19		2)循環器系のフィジカルアセスメント 演習:心音(Ⅰ音とⅡ音)の聴診			講 義 演 習
20		3)腹部のフィジカルアセスメント 演習 ①腸蠕動音の聴診 ②腹部全体の触診・打診 4)筋・骨系のフィジカルアセスメント 5)脳・神経系のフィジカルアセスメント 演習:瞳孔・対光反射の観察			講 義 演 習
21		6)事例を用いたフィジカルアセスメント演習(1時間)			演習
22	看護業務に関する 情報	1. 看護業務に関する情報の種類 2. 看護業務に関する情報の記録、報告、共有			講 義 演 習
23	学習支援	1. 学習に関する諸理論 2. 学習支援の方法と媒体 3. 学習支援のプロセス			講 義
24		終了試験(1時間)			
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
1)系統看護学講座専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 2)看護がみえるvol.①、vol.③ MEDIC MEDIA				授業の中で適宜紹介 します。	
【 評価方法 】					
筆記試験と技術試験による評価。					

授業科目	看護の方法Ⅱ (日常生活援助技術)	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	2単位60時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 目標 】					
1. 日常生活援助に必要な看護技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	環境調整技術	1. 環境調整援助の基礎知識 1) 外部環境と内部環境 2) 療養生活における環境 3) 環境調整における看護の役割			講 義
2		4) 病室の環境のアセスメントと調整 (1) 病室・病床の選択 (2) 温度・湿度 (3) 光と音 (4) 色彩 (5) 空気の清浄性において (6) 人的環境			講 義
3		2. 療養生活を整えるための援助 1) 環境整備 2) ベッドメイキング			講 義
4		3. ベッド周囲の環境調整 4. ベッドメイキングの実際			演 習
5		ベッドメイキングの実際			演 習
6		ベッドメイキングの実際			演 習
7		ベッドメイキング技術試験(1時間)			技術試験
8		5. リネン交換の実際			演 習
9		リネン交換の実際			演 習
10	食事と栄養の 援助技術	1. 食事の基礎知識とアセスメント 1) 食事の意義 2) 栄養状態、食欲、摂食・嚥下能力のアセスメント			講 義
11		2. 食事援助の基礎知識 1) 医療施設で提供される食事 2) 食事援助の基礎知識 3) 事例検討			講 義 演 習
12		3. 食事援助技術の実際 1) 事例をもとに援助を考える 2) 嚥下のメカニズム 3) 非経口的栄養摂取の援助 ①経鼻経管栄養法 ②胃瘻法 ③中心静脈栄養法			講 義 演 習
13		4. 食事介助の実際			演 習
14	排泄援助技術	1. 排泄の意義・メカニズム			講 義
15		2. 排泄(排尿・排便)のアセスメント			講 義
16		3. 自然排尿および自然排便の援助 (1) 自然排泄を促す援助 (2) トイレにおける排泄援助 (3) ポータブルトイレでの排泄援助 (4) 床上排泄援助			講 義

授業科目	看護の方法Ⅱ (日常生活援助技術)	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	2単位60時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 目標 】					
1. 日常生活援助に必要な看護技術を習得する。					
【 内容 】					
17	排泄援助技術	(5)おむつによる排泄援助 4. 排尿障害時の援助 (1)一時的導尿 (2)持続的導尿	講 義		
18		5. 排泄援助の実際 (1)尿器・便器の当て方 (2)おむつの当て方	演 習		
19					
20		6. 排泄障害時の援助 (1)浣腸 (2)摘便 7. 排泄経路変更時の援助	講 義		
21		8. 排便障害の援助の実際 (1)グリセリン浣腸	演 習		
21	活動と運動の 援助技術	1. 活動と運動の意義 2. 基本的活動の基礎知識 1)姿勢・体位 2)関節可動域 3)良肢位	講 義		
22		4)廃用性症候群 5)日常生活動作 6)ボディメカニクス 3. 活動のアセスメント	講 義		
23		4. 活動援助技術 1)体位変換 2)自動・他動運動	講 義		
24		3)ストレッチャーでの移動の援助 4)歩行の援助 5)車椅子での移動の援助	講 義		
25		5. ストレッチャーの移乗・移動の実際 車椅子の移乗・移動の実際	演 習		
26		ストレッチャーの移乗・移動の実際 車椅子の移乗・移動の実際 (1時間)	演 習		
27		車椅子移乗・移送技術試験(1時間)	技術試験		
28	休息と睡眠の 援助技術	1. 睡眠・休息の基礎知識 2. 睡眠・急速に関するアセスメント 3. 睡眠・休息援助技術の実際	講 義		
29	安楽の確保の 技術	1. 安楽確保の意義 2. 安楽確保に関するアセスメント	講 義		
30		1. 安楽確保の援助技術の実際 電法(温電法・冷電法)	演 習		
31		終了試験(1時間)			
【 使用テキスト 】					【参考文献・紹介文献】
系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみるvol.① MEDIC MEDIA					適宜、紹介します。
【 評価方法 】					
筆記試験と技術試験による評価。					

授業科目	看護の方法Ⅲ (日常生活援助技術)	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 目 標 】					
1. 日常生活援助に必要な看護技術を習得する。 1) 清潔援助技術 2) 衣生活援助技術					
【 内 容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	清潔援助技術	1. 清潔援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 口腔内の構造と機能 3) 清潔援助の効果 4) 対象のアセスメントと援助の決定、留意点			講 義
2		2. 清潔援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 2) 全身清拭 3) 陰部洗浄			講 義
3		4) 手浴 5) 足浴 6) 洗髪 7) 整容 8) 口腔ケア			講 義
4	衣生活援助技術	1. 衣生活援助の基礎知識 2. 衣生活に関するアセスメント 3. 衣生活の援助の実際 1) 和式寝衣の交換 2) パジャマ(セパレートタイプ)の交換 3) 片麻痺、輸液ラインが挿入されている場合の寝衣交換			講 義
5		演習：和式寝衣の交換			演 習
6		演習：パジャマ(セパレートタイプの寝衣)の交換 輸液ラインが挿入されている患者の寝衣交換			演 習
7	清潔援助技術	演習：手浴、足浴の援助			演 習
8		演習：陰部の清潔保持の援助(陰部洗浄、陰部清拭)			演 習
9		演習：洗髪の援助			演 習
10		演習：全身清拭の援助			演 習
11		演習：全身清拭の援助			演 習
12		演習：全身清拭の援助			演 習
13		演習：全身清拭・和式寝衣交換の援助 (3時間)			演 習
14		演習：全身清拭・和式寝衣交換の援助 (3時間)			演 習
15	全身清拭・和式寝衣交換技術試験(2時間)				技術試験
16	終了試験(1時間)				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護がみえるvol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA				適宜紹介します。	
【 評価方法 】					
筆記試験と技術試験による評価。					

授業科目	看護の方法Ⅳ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	2単位 60時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】1. 診療に伴う看護技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	呼吸・循環・体温を整える技術	1. 体温管理の技術、末梢循環促進ケア			講 義
2		2. 酸素吸入療法、酸素ボンベの取り扱い			講 義
3		3. 排痰ケア(体位ドレナージ、ハフティング、吸引)			講 義
4		4. 演習:酸素吸入、一時的吸引			演 習
5					
6	創傷管理の技術	1. 創傷管理の基礎知識・アセスメント 2. 創傷処置(創洗浄と創保護)			講 義
7		3. 褥瘡予防・治癒の促進			講 義
8		4. 創傷処置(包帯法)			講義・演習
9		5. 包帯法の実際			演 習
10	救命救急処置	1. 救命救急処置の基礎知識 一次救命・二次救命 2. 心肺蘇生法 3. 止血法 4. 急変時の対応 演習:気道確保・胸骨圧迫			講義・演習
11	検査時の援助技術	1. 検査の目的・種類 2. 検査における看護師の役割			講 義
12		3. 検査時の看護 ①検体検査 ②生体検査			講 義
13		③内視鏡検査・穿刺 ④静脈血採血の基本手技 ⑤血糖測定の手技			講 義
14		検査時の看護 血液検査と看護、静脈血採血の基本手技、 血糖測定手技			講 義
15		4. 血糖測定の実際			演習
16		5. 静脈血採血の実際(注射器採血法・ホルダー採血法)			演 習
17		静脈血採血(モデル人形)技術試験(1時間)			技術試験
18	死亡時の援助技術	1. 死の看取りの基礎知識 2. 臨終の見守りと死後のケア 3. グリーフケア			講義・演習
19	与薬の技術	1. 与薬の基礎知識 2. 与薬における看護師の役割 3. 安全で正しい与薬 6R			講 義
20		4. 与薬の方法 経口・口腔内与薬・吸入療法・経皮与薬・点眼点鼻 点耳・直腸内与薬			演 習
21		演習:直腸内与薬			演 習

授業科目	看護の方法Ⅳ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	2単位 60時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】1. 診療に伴う看護技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
22	与薬の技術	5. 注射の基礎知識 6. 注射の準備 注射筒・針の構造 7. 注射法(皮下注射・筋肉注射)			講義
23		8. 援助の実際 演習:薬剤の準備(アンプルカット・バイアル吸い上げ)			講義・演習
24		演習:薬剤の確認・準備・実施(アンプル～皮下注射実施)			演 習
25		9. 注射の実施方法 筋肉注射(アンプルカット～筋肉注射実施)			演 習
26		筋肉注射振り返り、まとめ			講義・演習
27		10. 静脈内注射 1)ワンショット 2)点滴静脈内注射			講義・演習
28		11. 点滴静脈内注射の実施方法と管理 1)プライミング 2)クレンメを用いた自然滴下による輸液速度の調整と管理 3)輸液ポンプを用いた方法、留意点 4)シリンジポンプを用いた方法、留意点			講義・演習
29		12. 混注法 13. 中心静脈カテーテル留置の介助			講義・演習
30		14. 輸血管理 1)輸血の種類と取り扱い 2)輸血の管理方法 3)輸血の副作用と観察			講 義
31		筋肉内注射技術試験(1時間)			技術試験
32		終了試験(1時間)			
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 看護がみるvol.② MEDIC MEDIA				適宜、紹介します。	
【 評価方法 】					
筆記試験と技術試験による評価。					

授業科目	看護過程の展開	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護過程に関する基本的知識・技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 看護過程とは 問題解決過程と看護過程 看護過程の概要(看護過程の意義・看護過程の段階) クリティカルシンキング				講 義
2	2. 看護過程の各段階 1)アセスメントについて (1)情報収集について:情報とは何か、情報収集の方法(視点) (2)情報の解釈・分析について(解釈分析の視点)				講 義
3	・事例(肺炎)を用いた生命維持領域(呼吸)の情報整理と解釈・分析 ・事例の情報の解釈分析の解説(呼吸)				演 習
4・5	・事例の情報から、生命維持と日常生活行動、 社会関係に関する項目の情報整理と解釈・分析				演 習
6	・事例を用いた情報の解釈・分析の解説				講 義
7	(3)患者の全体像の把握 (関連図について) 病態関連図に基づいた患者情報の整理(患者関連図) 2)看護上の問題の明確化について 看護上の問題の抽出、優先順位の決定とその根拠 共同問題について				講 義
8・9	・事例を用いた患者の全体関連図の作成 看護上の問題の抽出と看護上の問題の優先順位の決定と その根拠を考える				演 習
10	・患者の全体関連図と看護上の問題について 看護上の問題の優先順位の決定とその根拠について解説				講 義
11	3)看護計画について (1)患者目標の設定 (2)看護計画の立案				講 義
12	・事例を用いた看護計画の作成(具体策作成)				演 習
13	4)看護計画の実施と評価				講 義
14	・看護計画の実施(演示)・評価				演習
15	看護過程全体のまとめ(45分・1時間)				演習
16	筆記試験(45分・1時間)				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 看護がみえる④看護過程の展開 メディックメディア					
【 評価方法 】					
演習:30点 筆記試験:70点					

授業科目	看護研究	時期	第3学年 第1・2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護実践における研究の方法を理解する。					
2. ケーススタディの方法を理解し、実習で受け持った患者の看護をケーススタディとしてまとめることで、看護を探究する態度を身につける。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	Ⅰ.看護研究とは 研究の意義、 Ⅱ.看護研究のプロセス				講 義
2	Ⅲ.看護研究に欠かせない文献検索とその実際				講 義 演 習
3	Ⅳ.看護研究の方法 研究の問いに基づいた分類				講 義
5	Ⅴ.看護研究と倫理的問題				講 義
6	Ⅵ.ケーススタディとは、 ケーススタディの目的 Ⅶ.ケーススタディのプロセス				講 義
7	Ⅷ.ケーススタディ計画書作成の意義と方法				講 義
8	Ⅸ.ケーススタディの実際 論文の構成 抄録の作成、発表と講評				講 義
9	論文作成①(計画書作成)				個人ワーク 指導
10	論文作成②(看護の実際)				個人ワーク 指導
11	論文作成③(看護の実際)				個人ワーク 指導
12	論文作成④(考察)				個人ワーク 指導
13	論文作成⑤(考察)				個人ワーク 指導
14	論文作成⑥(全体)				個人ワーク 指導
15	筆記試験				
16	ケーススタディ発表				発表
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
黒田裕子:黒田裕子の看護研究 step by step. 第6版. 学研, 2023.				1. 南裕子・野嶋佐由美 編:看護における研究. 第2版. 日本看護協会出版会, 2017. 2. 森田夏実 編:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方. 新版. 照林社, 2021. 3. 國澤尚子編著:はじめて学ぶケーススタディ、第2版、総合医学社、2020.	
【 評価方法 】					
筆記試験:30点					
ケーススタディ計画書、取り組み、論文構成、発表により評価:70点					

2025年度

授業科目	基礎看護技術実習	時期	第1学年	単位数 (時間)	1単位 45時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	基礎看護技術実習(1日間) 1. 患者の日常生活の実際を通し、入院生活を理解できる。 基礎看護技術実習(4日間) 1. 患者の日常生活を理解し、患者に適した日常生活援助ができる。				
実習目標	基礎看護技術実習(1日間) 1. 患者の入院生活の過ごし方が理解できる。 2. 患者の生活環境(物理的・人的)が理解できる。 基礎看護技術実習(4日間) 1. 患者に適したコミュニケーションをとることができる。 2. 患者に必要な日常生活援助を考えることができる。 3. 患者に必要な日常生活援助を安全・安楽・自立に考慮し実施することができる。				
到達目標	基礎看護技術実習(1日間) 1. 入院している患者の一日の過ごし方を説明できる。 2. 患者の物理的環境が説明できる。 3. 患者の人的環境が説明できる。 基礎看護技術実習(4日間) 1. 尊重した態度でコミュニケーションができる。 2. 患者の日常生活が観察できる 3. 患者に必要な援助を考えることができる。 4. 実施の目的・方法を説明でき、承諾を得ることができる。 5. 使用物品の準備ができる。 6. 実施時のプライバシーの保持ができる。 7. 援助前・中・後の患者の状態・反応の観察ができる。 8. 安全に配慮し実施できる。 9. 安楽に配慮し実施できる。 10. 自立に配慮して実施できる。 11. 使用した物品の後片づけができる。 12. 援助を振り返り、報告・記録することができる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法 基礎看護技術実習(1日間) [実習施設]:山形病院 [実習期間]:2024年6月 1日間 [実習内容・実習方法] 1. 患者は受け持たない。 2. 病棟の構造や患者の日課等について、実習指導者から説明を受ける。 3. 実習指導者または看護師と行動を共にして、患者の生活環境を見学、体験、計測等を行う。 4. 機会があれば、患者とコミュニケーションを図り、1日の生活や入院生活に対する思いを聴く。 5. 一日実習終了前に行われるカンファレンスでは、実習で気づいたことや学んだことを発表する。				

授業計画	基礎看護技術実習(4日間) [実習施設]:山形病院 [実習期間]:2024年2月 4日間 [実習内容・実習方法] 1. 学生2名で1人の患者を受け持つ。 2. 実習初日、各実習場所においてオリエンテーションを受ける。 3. 毎朝、学生は実習指導者に行動計画を発表して、時間調整・助言を受ける。 4. 栄養と食事・排泄・清潔・衣生活・動作と運動・休息と睡眠・環境について観察し、必要な援助を考えて実施する。 5. 看護技術の実施について 1) 最初は必ず見学をする。その後、実施する時は、実習指導者または教員と共に行う。 2) 考えた援助については、適切な方法かどうかを必ず指導者に確認してもらい助言を受ける。 3) 実施後は実習指導者に報告する。 6. バイタルサイン等、1人で実施した場合は、その結果を速やかに実習指導者に報告する。 7. 毎日、振り返りのカンファレンスを行い、最終日のカンファレンスは実習目標に沿って行う。
実習評価	基礎看護技術実習(1日間) 1. 基礎看護技術実習の評価は、45時間のうち、30時間(2/3)以上の出席時間数で評価を受けることができる。基礎看護技術実習(1日間)を欠席した場合、基礎看護技術実習(5日間)で30時間以上の出席時間数があれば評価を受けることができる。 2. 基礎看護技術実習(1日)評価表(10点満点)を使用する。 3. 学生は、実習評価表の自己評価の欄に自己の評価点をボールペンで記入する。 4. 実習評価表には、実習病棟、実習日、学籍番号、学生氏名を記載する(評価者は記載しない)。 基礎看護技術実習(4日間) 1. 実習評価は「基礎看護技術実習 評価表」を用いて行う。 2. 点数配分は、基礎看護技術実習(1日間):10点、基礎看護技術実習(5日間):90点、合計100点となり、60点以上で単位を習得できる。 *評価を受けるには出席時数が基礎看護技術実習(1日間)と合わせて、2/3以上(30時間以上)必要である。
参考文献	随時紹介する

2025年度

授業科目	看護過程展開技術の実習	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	1. 対象に応じた看護過程の展開方法がわかる。				
実習目標	1. 対象の看護に必要な情報が収集できる。 2. 収集した情報の解釈・分析を行い、看護上の問題を明確にできる。 3. 看護計画を立案できる。 4. 看護計画に基づいて実施できる。 5. 実施した看護を評価でき、修正の必要性が理解できる。				
到達目標	1. 対象の生命維持と日常生活についての情報が収集できる。 2. 対象の社会関係についての情報が収集できる。 3. 対象の疾患、治療・看護についての情報が収集できる。 4. 情報の整理・分類ができる。 5. 情報の解釈・分析ができる。 6. 関連図を描くことができる。 7. 看護上の問題を明確にできる。 8. 問題の優先順位の根拠を説明できる。 9. 長期目標と短期目標(期待される結果)が設定できる。 10. 具体策が立案できる。 11. 対象の状態に応じた援助を選択できる。 12. 対象の安全・安楽・自立を考えて実施できる 13. 目標の達成を判断できる。 14. 看護計画の修正の必要性を述べるができる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	[実習施設]: 山形病院 [実習期間]: 2024年6月～7月 10日間 [実習内容・実習方法] 1. 患者を1名受け持ち、看護過程の展開を行う。 2. 看護問題の抽出は、すべて抽出し、優先順位上位2つの看護問題について看護計画の立案・実施・評価を行う。 3. カンファレンス 1) 日々のカンファレンスについて (1) 原則として毎日、振り返りのカンファレンスを行う。 (2) カンファレンスの日時は、学生が実習指導者と教員と相談して決める。 (3) 司会は実習指導者が行う。 (4) 実習最終日は、実習目標に沿ったカンファレンスを行う。 2) テーマカンファレンスについて 「看護上の問題の抽出」ができたところで、テーマカンファレンスを行う。 学生は「カンファレンス計画書」を作成し、前日までに実習指導者と教員に提出する。				
実習評価	実習評価は、「看護過程展開技術の実習評価表」を用いる。 1) 評価基準は、優(80点以上)・良(70～79点)・可(60～69点)及び不可(60点未満)とし、可以上を合格とする。 2) 評価を受けるには、実習時間数の2/3以上(60時間以上)の出席時間数が必要である。 3) 学生は、自己評価の欄に自己評価点をボールペンで記入し、最終記録と一緒に提出する。 ⑨1:基礎看護技術実習(5日間)は日常生活援助について実技試験で合格していることが望ましい。 2看護過程展開技術の実習を合格しなければ各専門領域の実習に進むことができない。				
参考文献	随時紹介する				

2025年度

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅰ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 地域・在宅看護の特徴を理解する					
2. 地域・在宅看護の対象を支える看護の役割を理解する					
3. 地域・在宅看護にかかわる制度や地域の社会資源との連携を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 地域・在宅看護の目的と特徴 1) 保健・医療・福祉の動向 2) 地域・在宅看護とは				講義
2	3) パートナーシップ 4) 多職種・多機関との連携によるアプローチ 5) ケアマネジメント 6) 意思決定支援 7) 自立支援				講義
3	2. 地域・在宅療養者の特徴 1) 在宅療養者の特徴と健康課題 ・小児 ・成人 ・高齢者 ・疾病や障害をもつ療養者 2) 在宅療養者を取り巻く環境と健康課題 ・地域の特徴 3) 暮らしの場で看護する基本姿勢				講義
4	3. 地域・在宅看護における看護師の役割 1) 症状マネジメント 2) 自立支援 意思決定支援／QOLの維持・向上／セルフケア／社会参加／閉じこもり予防 3) リスクマネジメント 4) 権利保障 権利擁護／虐待防止／個人情報管理／サービス提供者の権利保護 5) 多職種連携、協働				講義
5	4. 健康と暮らしを支える看護 1) 地域包括ケアシステムの概要 (1) 構成要素 (2) 自助、互助、共助、公助 (3) 地域包括ケアシステムと看護 2) 暮らしの中の看護（暮らしの保健室・認知症カフェ等）				講義
6	5. 地域・在宅看護にかかわる制度と看護 1) 介護保険制度 2) 訪問看護制度 3) 難病法 4) 障害者総合支援 5) 児童虐待防止法 6) 障害者虐待防止法				講義
7	6. 地域における社会資源の種類と機能・看護の役割 1) 地域・在宅看護におけるサービス体系				講義
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護の実践 医学書院 公衆衛生がみえる					
【 評価方法 】					
筆記試験 (100点)					

2025年度

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
	看護師			実務経験	有
【 科目目標 】					
1. 地域・在宅看護の対象としての家族の特徴を理解する					
2. 家族看護にかかわる理論と介入法について理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 地域・在宅看護の対象としての家族 1) 家族看護とは 2) 家族の構造と機能 3) 暮らしの中の安全管理・災害看護				講義
2	2. 家族看護の実際 1) 発達課題達成への支援 2) ライフスタイル維持への支援 3) 健康問題への対応能力への支援 問題解決能力／対処能力／適応能力				講義
3	3. 家族看護を支える理論 1) 家族システム理論 2) セルフケア理論 3) 危機理論				講義
4	4. 療養者と家族支援の看護の実際 ・慢性腎不全療養者と家族支援 食事療法・血液透析・腹膜還流				講義
5	4. 療養者と家族支援の多職種連携の実際 ・慢性腎不全療養者と家族支援				講義
6	2. 家族看護の介入法 1) 発達課題達成への支援 2) ライフスタイル維持への支援				講義／演習
7	3) 健康問題への対応能力への支援 *家族を支える理論を活用した事例展開(家族看護の視点)				講義／演習
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護の基盤 医学書院					
地域・在宅看護の実践 医学書院					
公衆衛生がみえる					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

2025年度

授業科目	地域・在宅看護の方法Ⅰ	時期	1学年 2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 暮らしが健康に与える影響を理解する					
2. 暮らしの中で健康維持・向上するための看護の役割・機能を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 地域での暮らし 2. 暮らしが健康に与える影響と健康づくり 1)生活習慣対策(栄養と食生活、飲酒、喫煙) 2)ライフサイクルと主な健診・検診 3)こころの健康 4)身体活動・運動 5)子どもの在宅療養を支える制度と支援 (1)育児支援(2)養育医療 (2)特別支援教育				講義
2	2. 暮らしが健康に与える影響と健康づくり 1)生活習慣対策(栄養と食生活、飲酒、喫煙) 2)ライフサイクルと主な健診・検診 3)こころの健康 4)身体活動・運動 5)育児支援 6)特別支援教育 ※地域で健康を支える支援の実際を見学し、社会資源の活用とその効果について学ぶ				地域見学
3	2. 暮らしが健康に与える影響と健康づくり 1)～6)の内容について ※地域で健康を支える支援の実際を見学し、社会資源の活用とその効果についてまとめ、発表し、学びを共有する				GW
4	3. 地域で展開される健康と暮らしを支える看護 1)地域で暮らし続けることを支援するシステム (1)行政機関(保健所・市町村) (2)地域包括支援センター (3)居宅介護支援事業所(4)介護サービス事業所 (5)医療機関				講義
5	4. 地域の生活環境が健康に与える影響 1)暮らしを支える制度 ・感染症対策 ・食品保健(食中毒) ・環境保健(大気汚染/上下水道/廃棄物処理)				講義
6	5. 暮らしの場で行われる医療と看護 1)外来看護 2)訪問看護 3)施設系サービスにおける看護				講義
7	6. 事例展開 (健康維持・増進への支援)				講義／演習
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護の実践 医学書院 公衆衛生がみえる					
【 評価方法 】					
筆記試験 80点 課題レポート 20点					

2025年度

授業科目	地域・在宅看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	非常勤講師			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 地域・在宅で生活しながら療養する人々とその家族に対する看護を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 在宅療養者とその家族の看護 1) 家族アセスメント 2) 家族への支援 3) 地域システムの視点から家族を支える方法				講義
2	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 1) 難病疾患による療養者と家族への看護 (1) 日常生活の支援 (2) 療養者と家族のメンタルサポート (3) 社会資源の情報提供と活用 (4) 医療機関との連携 ※在宅人工呼吸療法、経管栄養法(胃瘻)、在宅中心静脈栄養法を受ける療養者の看護も含む				講義
3	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 2) 脳血管疾患にある療養者と家族への看護 (1) 在宅に移行する療養者の看護 ・日常生活上の指導 ・社会資源の情報提供と活用 (2) 寝たきりで過ごす療養者の看護 ・寝たきりによる合併症予防と家族への指導)※褥瘡管理を含む ・QOLを考慮したADLの援助 ・家族の健康維持や心理的な支援 ・社会資源の活用				講義
4	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 3) 認知症の療養者と家族への看護 (1) 症状への対応 (2) 服薬指導 (3) 事故防止 (4) 社会資源の活用				講義
5	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 4) 重症心身障害のある療養者と家族への看護 (1) 日常生活への支援 (2) 家族の精神的支援(レスパイト、支援学校への通学支援)				講義
6	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 5) 精神疾患の療養者と家族への看護 (1) 通院や服薬を中断している療養者と家族への支援 (2) 生活復帰や就労支援 (3) 長期療養者を抱える家族のへの支援				講義
7	3. 在宅における医療管理を必要とする療養者の看護 1) 在宅酸素療法 2) 化学療法・放射線療法				講義
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護の基盤 医学書院					
地域・在宅看護の実践 医学書院					
成人看護学 脳神経 呼吸器 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

2025年度

授業科目	地域・在宅看護の方法Ⅲ	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 在宅看護を受ける療養者の病期に応じた看護が理解できる					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 在宅療養の病期別看護 1)病期別看護とは 2)記録の目的と種類 ・看護サマリー ・居宅サービス計画 ・介護予防サービス計画 ・施設サービス計画 ・訪問看護記録				講義
2	2. 在宅療養準備期(退院前) 1)医療における入退院時の連携 2)患者・家族の意思決定支援と調整 3)退院支援・退院調整 4)看看連携 5)病病連携/病診連携 6)医療施設や介護施設との連携 7)行政との連携 8)在宅ケアで連携する主な保健・医療・福祉関連職種とその役割 9)チーム医療における関係職種との連携				講義
3	3. 在宅療養移行期 1)療養生活と介護の実際 2)サービスの利用と評価 3)ケア方法の指導 4)介護者の健康維持への支援 5)チーム医療における関係職種との連携				講義
4	4. 在宅療養安定期 1)地域ケア会議における看護職種の役割 2)家族の介護力のアセスメントと調整 3)在宅におけるリハビリテーション 4)チーム医療における関係職種との連携				講義
5	5. 急性増悪期 1)症状悪化の予防と早期対応 2)緊急時の対応 3)医師・医療機関との連携 4)チーム医療における関係職種との連携 4)看護サマリー 5)移送手段の確保と入院の準備				講義
6	6. 終末期(看取り期) 1)ターミナルケアの支援体制(医療・看護・介護) 2)チーム医療と関係職種との連携 2)終末時緩和ケアの実際 4)アドバンス・ケア・プランニング				講義
7	6. 終末期(看取り期) 1)看取りへの支援 2)家族へのグリーフケア				講義
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
地域・在宅看護の基盤 医学書院				1)要介護3・4・5の人のための	
地域・在宅看護の実践 医学書院				在宅リハビリ 医歯薬出版株式会社	
リハビリテーション看護 医学書院				2)家族を家で看取る本 主婦の友社	
成人看護学総論 医学書院				3)説明できるエンゼルケア	
【 評価方法 】				40の声かけ・説明例 医学書院	
筆記試験(80点)				4)はじめてでも怖くない	
課題①わたしが考える意思決定支援とは(10点)				自然死の看取りケア メディカ出版	
課題②わたしが考える看護師として看取るとは(10点)					

2025年度

授業科目	地域・在宅看護の展開技術	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
	訪問看護師			実務経験	有
【 科目目標 】					
1. 在宅療養者のニーズに応じながら看護を実践するために必要な技術を習得する					
2. 在宅療養者と家族の健康上の問題を把握し、社会資源の活用を考慮した看護過程の展開技術を習得する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 地域・在宅看護の基本技術 訪問時のマナー / コミュニケーション技術				講義/演習
2	訪問看護ステーションの機能と看護の実際				講義
3	1. 地域・在宅看護の基本技術(訪問時のマナー) ＊事例をふまえ訪問から看護実践・退去まで一連の流れをロールプレイする				演習
4	1. 地域・在宅看護の基本技術 1)生活機能アセスメント(ADL／IADL) 2)日常生活能力アセスメント 食事・栄養／排泄／清潔／移動／コミュニケーション				講義/演習
5	2. 地域・在宅看護技術 2)暮らしのなかの日常生活援助技術				講義
6	3. 地域・在宅看護技術 3)暮らしのなかの診療補助技術				講義
7	4. 事例展開 心不全療養者と家族への支援				講義/演習
8	4. 事例展開 心不全療養者と家族への支援				演習
9	3. 地域・在宅看護技術 3)暮らしのなかの診療補助技術				演習
10	3. 地域・在宅看護技術 3)暮らしのなかの診療補助技術				演習
11	3. 地域・在宅看護技術 3)暮らしのなかの診療補助技術				演習
12	2. 地域・在宅看護技術 2)暮らしのなかの日常生活援助技術				演習
13	4. 事例展開 心不全療養者と家族への支援				演習
14	4. 事例展開 心不全療養者と家族への支援				演習
15	4. 事例展開 心不全療養者と家族への支援 まとめ(45分)				
16	終了試験(45分)				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
地域・在宅看護の基盤 医学書院					
地域・在宅看護の実践 医学書院					
技術がみえる①②③					
リハビリテーション看護 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(70点)					
課題(30点)					

2025年度

授業科目	地域・在宅看護論実習 I	時期	第2学年	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	1.地域・在宅看護論で学んだ知識・技術・態度を統合し、地域で生活している在宅療養者と家族の特性を理解し、適切な看護を行う基礎的能力を養う。				
実習目標	1.在宅療養者と家族の特性および個別性を理解できる。 2.在宅療養者と家族への在宅療養支援を理解できる。 3.在宅療養者と家族に適した看護ができる。 4.在宅看護が行われている施設と関係機関・関係職種との連携が理解できる。				
到達目標	〔介護老人保健施設〕 1.在宅療養者の身体的・精神的側面、環境・生活の側面を説明できる。 2.在宅療養者の家族・介護状況の側面について説明できる。 3.対象の生活を考慮した看護ができる。 4.高齢者の健康管理ができる。 5.高齢者を尊重した接し方ができる。 6.施設の役割・機能が説明できる。 7.関係機関・関係職種 について説明できる。 8.関係機関や関係職種との連絡・調整のしかたについて説明できる。 9.急変時の対応がわかる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	〔実習施設〕:介護老人保健施設 〔実習期間〕:2023年11月～2024年3月 〔実習内容・実習方法〕 介護老人保健施設 1)利用者を1人受け持ち、看護過程に沿って看護計画立し、実施・評価する 2)介護保険施設におけるケアカンファレンスに参加する 3)2週目にテーマカンファレンス、3週目に最終カンファレンスを実施する。				
実習評価	1.実習評価は、「地域・在宅看護論実習評価表」を用いて行う。				
参考文献	随時、紹介する				

2025年度

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ	時期	第3学年	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	1.地域・在宅看護論で学んだ知識・技術・態度を統合し、地域で生活している在宅療養者と家族の特性を理解し、適切な看護を行う基礎的能力を養う。				
実習目標	1.在宅療養者と家族の特性および個別性を理解できる。 2.在宅療養者と家族への在宅療養支援を理解できる。 3.在宅療養者と家族に適した看護ができる。 4.在宅看護が行われている施設と関係機関・関係職種との連携が理解できる。				
到達目標	〔山形病院外来・病院外来・訪問看護ステーション・特別養護老人ホーム〕 1.在宅療養者の身体的・精神的側面、環境・生活の側面を説明できる。 2.在宅療養者の家族・介護状況の側面について説明できる。 3.対象の生活を考慮した看護ができる。 4.施設の役割・機能が説明できる。 5.関係機関・関係職種 について説明できる。 6.関係機関や関係職種との連絡・調整のしかたについて説明できる。 8. 急変時の対応がわかる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	〔実習施設〕：山形病院外来・病院外来・訪問看護ステーション・特別養護老人ホーム 〔実習期間〕：2024年5月～11月 〔実習内容・実習方法〕 1.山形病院外来 1) 各科外来を1日ずつローテーションし、診療や看護を見学、実施する。 2) 患者1事例を受け持ち、看護過程に沿って振り返りを行う。 3) 地域医療連携室でオリエンテーションを受ける。 2.病院外来 1) 患者は受け持たず、臨床講義、見学、患者とのかかわりから学ぶ。 2) オリエンテーションを受け、看護の特徴を理解する。(透析室の特徴、透析看護の特徴等) 3) 事前学習は、A4用紙にまとめ、実習当日の朝に実習指導者に提出する。(実習中は携帯する) 3.訪問看護ステーション 1) 実習指導者と同行訪問し、援助を実施する。 2) 訪問事例から1事例を選択し、看護過程に沿って振り返りを行う。 4.特別養護老人ホーム 1) 利用者を1人受け持ち、看護過程に沿って看護計画立案まで行う。 2) 看護師に2日間、介護士に2日間同行し、学習する。				
実習評価	1.実習評価は、各施設ごとの「在宅看護論実習評価表」を用いて行う。 2.山形病院外来30点、特別養護老人ホーム30点、訪問看護ステーション30点、病院外来10点とし、合わせて100点で評価する。				
参考文献	随時、紹介する				

授業科目	成人看護学概論		時期	第1学年 第2学期		単位数 (時間数)	1単位 30時間	
講師名	専任教員					実務経験 有無	有	
【 科目目標 】								
1. 成人期にある対象の身体的、精神・心理的、社会的特徴を幅広く理解する。								
2. 成人期に起こりやすい健康問題を理解する。								
3. 成人期の健康の保持・増進、疾患の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。								
【 内容 】								
回数	授業内容					授業方法		
1	1. 成人看護の対象 理解	1)対象の理解 ①生涯発達の特徴 ②各発達段階の特徴			講 義			
2		③対象の生活			講 義			
3		2)成人を取り巻く環境と生活からみた健康			講 義			
4	2. 成人期におこりや すい健康問題	1)健康バランスの構成要素と影響を及ぼす要因			講 義			
5		2)生活行動がもたらす健康問題とその予防 ①就業・労働形態の変化がもたらす健康問題 ②生活環境衛生と健康問題 ③ストレスに関連する新たな健康問題						
6	3. 成人の生活と健康をま もりはぐくむ保健医療福祉	1)保健医療福祉システムの概要と連携			講 義			
7	4. 健康レベルや状態に対 応した看護	1)健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 ①健康の急激な破綻			講 義			
8		②急性期のある人の看護			講 義			
9		2)慢性病とともに生きる人を支える看護 ①慢性病を持つ人の特徴 ②セルフケア・セルフマネジメントへの支援			講 義			
10		③生活の再構築への支援			講 義			
11		3)障害がある人の生活とリハビリテーション ①障害の受容と適応の看護 ②障害がある人とその生活を支援する看護			講 義			
12		4)人生の最期のときを支える看護 ①人生の最期のときにおける医療の現状 (自己決定支援、緩和ケア、エンドオブライフケア)			講 義			
13		②人生の最期のときを過ごしている人の理解 (全人的苦痛(トータルペイン)) ③人生の最期のときを支える看護師の役割・機能 (意思決定支援、ACP、デスエデュケーション)			講 義			
14		5)さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援			講 義			
15		終了試験						
【 使用テキスト 】						【参考文献・紹介文献】		
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)								
【 評価方法 】						国民衛生の動向		
筆記試験:100点								

授業科目	成人看護の方法Ⅰ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 成人が健康な生活を営むために必要な看護の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 健康生活を促すための看護アプローチ	1)大人の健康行動の捉え方 2)行動変容を促進する看護アプローチ 3)効果的な症状マネジメントを導く看護アプローチ			講 義
2	2. ヘルスプロモーションを促進する看護	1)ヘルスプロモーションと看護 2)ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動			講 義
3	3. 生活習慣病の予防と看護	1)生活習慣病の予防と看護(健康日本21) 2)生活習慣病予防のための指導教育演習 課題提示			講 義
4		生活習慣病予防のための指導教育演習 グループワーク①			演 習
5		生活習慣病予防のための指導教育演習 グループワーク②			演 習
6		生活習慣病予防のための指導教育演習 グループワーク③			演 習
7		グループワーク発表、まとめ			演 習
		終了試験			
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験 グループワーク演習評価					

授業科目	成人看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 健康障害がある成人に対する看護について理解する。					
2. 呼吸器・循環器・血液造血器系疾患患者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	肺腫瘍患者の看護(肺がん、悪性中皮腫)			講 義	
2	気道疾患患者の看護(気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、)			講 義	
3	胸膜疾患患者の看護(胸膜炎・膿胸・気胸)			講 義	
4	感染症患者の看護(肺炎、気管支炎、誤嚥性肺炎)			講 義	
5	虚血性心疾患患者の看護(狭心症・心筋梗塞) 弁膜症患者の看護			講 義	
6	心不全患者の看護			講 義	
7	心不全患者の看護			講 義	
8	不整脈患者の看護			講 義	
9	動脈系疾患・静脈系疾患患者の看護			講 義	
10	腫瘍患者の看護(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)			講 義	
11	腫瘍患者の看護(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)			講 義	
12	腫瘍患者の看護(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)			講 義	
13	出血性疾患患者の看護(血栓性血小板減少性紫斑病、免疫性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固)			講 義	
14	貧血・白血球減少症患者の看護			講 義	
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の方法Ⅲ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 健康障害がある成人に対する看護について理解する。					
2. 消化器系疾患患者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	胃十二指腸患者の看護			講 義	
2	胃がん患者の看護			講 義	
3	胃がん患者の看護			講 義	
4	食道がん患者の看護			講 義	
5	食道がん患者の看護			講 義	
6	肝炎・肝硬変患者の看護			講 義	
7	肝臓がん患者の看護			講 義	
8	肝臓がん患者の看護			講 義	
9	胆石症患者の看護			講 義	
10	膵炎患者の看護			講 義	
11	膵臓がん患者の看護			講 義	
12	潰瘍性大腸炎、クローン病患者の看護			講 義	
13	大腸がん患者の看護			講 義	
14	大腸がん患者の看護			講 義	
15	終了試験				
【 使用テキスト 】					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の方法Ⅳ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 健康障害がある成人に対する看護について理解する。					
2. 腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、女性生殖器系疾患患者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	腎不全患者の看護			講 義	
2	腎不全患者の看護			講 義	
3	感染症患者の看護(前立腺炎) 腎・尿路結石患者の看護(腎結石症、尿路結石症)			講 義	
4	腫瘍をもつ患者の看護(腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、精巣腫瘍)			講 義	
5	腫瘍をもつ患者の看護(腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、精巣腫瘍)			講 義	
6	甲状腺疾患患者の看護			講 義	
7	自己免疫疾患患者の看護			講 義	
8	糖尿病患者の看護			講 義	
9	乳がん患者の看護			講 義	
10	乳がん患者の看護			講 義	
11	乳がん患者の看護			講 義	
12	子宮疾患患者の看護 (子宮頸がん、子宮体がん、子宮筋腫、子宮内膜症)			講 義	
13	子宮疾患患者の看護 (子宮頸がん、子宮体がん、子宮筋腫、子宮内膜症)			講 義	
14	卵巣疾患患者の看護(卵巣がん、炎症、嚢胞)			講 義	
15	終了試験			講 義	
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の方法Ⅴ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①学校事務長 ②③④⑤⑥⑦非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 国立病院機構が担う政策医療の内容と行われている看護の特徴を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	国立病院機構の役割と機能、今後の展望 国立病院機構における政策医療			講 義	①
2	肺結核患者の看護(病態、検査、治療)			講 義	②
3	結核患者の看護(看護) 結核に関わる関係法規			講 義	
4	重症心身障害児と法規			講 義	③
5	重症心身障害児の看護			講 義	
6	重症心身障害児の看護			講 義	
7	重症筋無力症患者の看護			講 義	④
8	筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の看護			講 義	
9	多系統萎縮症患者の看護 / パーキンソン病患者の看護			講 義	
10	筋ジストロフィー患者の看護(病態、検査)			講 義	⑤
11	筋ジストロフィー患者の看護(治療、看護)			講 義	
12	がん患者の抱える苦痛			講 義	⑥
13	がん患者の治療と看護 がん患者の社会参加への支援			講 義	
14	エイズ患者とその動向、エイズ患者の看護			講 義	⑦
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 成人看護学2・4・7・10 小児看護学					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の展開技術	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
周手術期にある成人の看護の展開技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	救急看護 (心肺停止状態への対応、ショックへの処置、急性症状の応急処置)				講 義
2	救急看護(外傷・熱傷・中毒・環境要因による障害の応急処置、感染症への処置)				講 義
3	周手術期看護の概論				講 義
4	手術前の看護、手術中の看護				講 義
5	術中に必要な看護技術(手術時手洗いとガウンテクニック)				演 習
6	手術後の看護				講 義
7	事例による看護過程の展開 事例紹介、情報収集 (大腸がんで手術を受ける成人期の患者の事例展開)				講 義
8	アセスメント				講 義
9	アセスメント / 関連図				講 義
10	関連図				講 義
11	問題抽出、優先順位の決定				講 義
12	目標設定、看護計画の立案				講 義
13	実施・評価				講 義
14	実施・評価、計画修正				講 義
15	まとめ(45分 1時間)				講 義
16	終了試験(45分 1時間)				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)				周手術期の看護	
・看護がみえる vol4 看護過程の展開 (メディックメディア)				急性期の看護	
				手術時の対応	
【 評価方法 】				OPナース	
筆記試験	60点			など多数	
事例展開演習の評価	40点				

2025年度

授業科目	成人看護学実習	時期	3 学年	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	成人看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、成人各期の特性に応じた適切な看護を行う能力を養う。				
実習目標	1. 急性期または回復期にある患者及び家族の特徴を理解できる。 2. 急性期または回復期にある患者及び家族の看護ができる。 3. 急性期または回復期にある患者の各系統の障害に応じた看護ができる。 4. 急性期または回復期にある患者の治療・処置・検査時の看護ができる。 5. 急性期または回復期にある患者をとりまく医療チームにおける看護の役割を理解できる。				
到達目標	1) 対象の身体的・精神的・社会的側面を説明できる。 2) 急性期にある患者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 3) 急性期にある患者を抱えた家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 4) 急性期にある患者の生命の維持・改善への援助ができる。 5) 急性期にある患者の身体的苦痛が緩和できる。 6) 急性期にある患者の精神的援助ができる。 7) 急性期にある患者の合併症の予防ができる。 8) 急性期にある患者の日常生活の援助ができる。 9) 急性期にある患者を抱えた家族への援助ができる。 10) 急性期にある患者の治療・処置・検査時の援助ができる。 11) 急性期にある患者に関わる医療チームを説明できる。 12) 医療チームとの連絡調整の方法を説明できる。 13) 回復期にある患者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 14) 回復期にある患者を抱えた家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 15) 回復期にある患者の状態に応じて日常生活の維持および拡大の援助ができる。 16) 回復期にある患者が障害や治療を受容し回復意欲が持てるように援助する。 17) 回復期にある患者の残存機能の維持および拡大のための援助ができる。 18) 回復期にある患者の社会生活適応への援助ができる。 19) 回復期にある患者の症状に応じた看護ができる。 20) 回復期にある患者を抱えた家族への援助ができる。 21) 回復期にある患者の検査・処置・治療時の看護ができる。 22) 回復期にある患者に関わる保健・医療・福祉チームを説明できる。 23) 保健・医療・福祉チームとの連絡調整の方法を説明できる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	成人看護学実習 [実習施設]大学医学部附属病院 [実習期間] 2024年5月～8月のうちの10日間 [実習内容・実習方法] 1. 患者1名を受け持ち、看護過程を展開を行う。 2. 受け持ち患者が決定していない場合には、他患者の援助を看護師と共に行う。 3. 事前学習は「6.事前学習」に準ずる。				
評価方法	実習評価は、「成人看護学実習評価表」を用いて行う。				
参考文献	随時紹介				

2025年度 2025年度～

授業科目	政策医療と看護実習 I	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	成人看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、成人各期の特性に応じた適切な看護を行う能力を養う。				
実習目標	1. 政策医療における役割と機能について理解できる。 2. 政策医療における看護が理解できる。 1) 重症心身障がい児(者)の看護が理解できる。 3. 慢性期または終末期にある患者をとりまく医療チームにおける看護の役割を理解できる。				
到達目標	1. 国立病院機構の役割と機能がわかる。 2. 国立病院機構における政策医療がわかる。 3. 重症心身障がいの主な障害がわかる。 4. 重症心身障がい児(者)の特徴がわかる。 5. 重症心身障がい児(者)の看護がわかる。 6. 長期療養を必要とする患者に関わる保健・医療・福祉チーム、関係機関の種類がわかる。 7. 長期療養を必要とする患者に関わる保健・医療・福祉チーム、関係機関の役割と連携の方法がわかる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	政策医療と看護実習 I [実習施設]山形病院 [実習期間] 2024年11月～2025年3月のうち10日間 [実習内容・実習方法] 1. 患者1名を受け持ち、看護過程を展開を行う。 2. 受け持ち患者が決定していない場合には、他患者の援助を看護師と共に行う。 3. 事前学習は「6.事前学習」に準ずる。				
評価方法	実習評価は、「政策医療と看護実習 I 評価表」を用いて行う。				
参考文献	随時紹介				

2025年度

授業科目	政策医療と看護実習Ⅱ	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	成人看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、成人各期の特性に応じた適切な看護を行う能力を養う。				
実習目標	1. 政策医療における役割と機能について理解できる。 2. 政策医療における看護が理解できる。 1) 神経難病患者の看護が理解できる 3. 慢性期または終末期で、長期療養を必要とする患者を支える保健・医療・福祉チームの役割と連携の方法が理解できる。				
到達目標	1. 国立病院機構の役割と機能がわかる。 2. 国立病院機構における政策医療がわかる。 3. 神経難病患者の身体的・精神的・社会的問題が把握できる。 4. 筋力低下や障害の程度に応じた日常生活の援助がわかる。 5. 筋力低下のある患者とのコミュニケーション方法がわかる。 6. 人工呼吸器装着中の患者の援助がわかる。 7. 神経難病患者の生活指導がわかる。 8. 結核患者の身体的・精神的・社会的問題が把握できる。 9. 結核病棟における感染管理がわかる。 10. 進行性筋ジストロフィー症の病態生理、症状、治療などがわかる。 11. 長期療養を必要とする患者に関わる保健・医療・福祉チーム、関係機関の種類がわかる。 12. 長期療養を必要とする患者に関わる保健・医療・福祉チーム、関係機関の役割と連携の方法がわかる。				
授業計画	学習目標・学習内容・学習方法				
	政策医療と看護実習Ⅱ [実習施設] 山形病院 [実習期間] 2024年5月～8月のうち10日間 [実習内容・実習方法] 1. 患者を1名受け持ち、看護過程の展開を通して必要な援助を実施する。 2. 事前学習は「6.事前学習」に準ずる。				
評価方法	実習評価は「政策医療と看護実習Ⅱ評価表」を用いて行う。				
参考文献	随時紹介する				

2025年度

授業科目	老年看護学概論	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有:病院での 老年看護
【 科目目標 】					
1.老年期にある対象の身体的、精神・心理的、社会的特徴を幅広く理解する。					
2.老年期に起こりやすい日常生活への影響について理解する。					
3.老年期の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	I 高齢者の特徴 1.高齢者の生きてきた時代 2.高齢者の身体的特徴 1)老化のメカニズム 2)老化と加齢 3)身体的機能の加齢変化と日常生活への影響				講義 演習
2	3.高齢者の知的機能・認知機能の特徴1)高齢者の知的機能・認知機能 2)知的機能・認知機能の加齢変化と日常生活への影響 4.高齢者の心理的特徴 5.高齢者のライフサイクルと発達課題 6.高齢者と家族				講義 演習
3	II 老年看護目標と役割 1.老年看護の対象としての高齢者の理解 2.老年看護のなりたち 3.老年看護の役割1)老年看護の特徴				講義 演習
4	3.老年看護の役割 2)老年看護実践の視点と役割(1)国際生活機能分類(ICF)(2)高齢者総合機能評価(3)日常生活動作(ADL)(4)手段的日常生活動作(IADL)(5)障害高齢者の日常生活動作度(寝たきり度)判定基準(6)要介護・要支援の認知と区分 3)老年看護の目標 4)老年看護の場と期待される役割(1)リロケーション(2)ケアインプレテス(3)エイジングインプレイス 4.老年看護の場と期待される役割1)ストレングスモデル2)ライフレビュー3)コンフォート理論4)高齢者の適応(1)サクセスエイジング				講義 演習
5	III 高齢者を取り巻く保健医療福祉 1.高齢者の生活1)高齢者の生活を考える視点2)高齢者と家族の状況3)高齢者の経済状況と住生活4)高齢者の生きがいと社会生活5)身体機能の低下による生活への影響6)認知機能の低下による生活への影響				講義 演習
6	2.高齢者を支える保健医療福祉制度 1)日本における保健医療福祉制度の変遷 2)介護保険制度 3)高齢者の生活を支える地域包括ケアシステム 4)後期高齢者医療制度 3.多職種連携による高齢者ケア				講義 演習
7	4.高齢者の権利擁護1)高齢者差別と権利擁護2)高齢者に対する虐待3)身体拘束4)高齢者の権利を守る制度				講義 演習
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)				新体系 看護学全書 老年看護学①老年看護学概論 老年保健 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の健康と障害 老年看護学①メディカ出版	
【 評価方法 】					
筆記試験 100点					

2025年度

授業科目	老年看護の方法Ⅰ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有:病院での 老年看護
【 科目目標 】					
1.高齢者が健康な生活を営むための看護の方法を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	Ⅰ 高齢者の健康を支える看護 1.高齢者のヘルスプロモーション 1)高齢者の健康①高齢者体験(高齢者の身体の加齢変化・・・視覚、聴覚、姿勢と歩行)				講義 演習
2	1.高齢者のヘルスプロモーション 2)高齢者の健康づくりに関する制度・法律 3)介護予防 4)認知症予防				講義 演習
3	1.高齢者のヘルスプロモーション 5)生活習慣病予防 6)服薬管理 2.セクシュアリティを考慮した看護 3.社会参加を促した看護				講義 演習
4	Ⅱ 高齢者特有の症状と看護 1.寝たきり、廃用症候群と看護 1)寝たきりと廃用症候群の病態と要因 2)寝たきりと廃用症候群のアセスメント3)寝たきりと廃用症候群の看護				講義 演習
5	2.めまいと看護 3.脱水と看護 4.かゆみと看護 5.熱中症と看護 6.痛みと看護				講義 演習
6	Ⅲ.高齢者に起こりやすい事故とリスクマネジメント 1.高齢者の医療事故の現状				講義 演習
7	2.高齢者に起こりやすい事故とリスクマネジメント 1)表皮剥離 2)転倒 3)窒息 4)火傷 5)溺死				講義 演習
8	終了試験				
9					
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)				新体系 看護学全書 老年看護学①老年看護学概論 老年保健 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学②メディカ出版	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験 100点					

2025年度

授業科目	老年看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①専任教員 ②非常勤講師 (看護師)	所属	①看護学校 ②病院	実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.高齢者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
2.さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者と家族の看護について理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容		授業方法		講師
1	急性期の看護 外来を受診する高齢者の看護 検査を受ける高齢者の看護 薬物治療を受ける高齢者の看護		講義		①
2	回復期、慢性期、終末期の看護 エンドオブライフケア		講義		
3	脳・神経系（認知症患者の看護） 1.認知症の種類 2. 症状 3. 日常生活への影響 4. 治療、非薬物療法 5. 認知症の予防		講義		②
4	脳・神経系（認知症患者の看護） 6. 認知症看護の基本的視点 7. 認知症高齢者と家族の支援		講義		
5	脳・神経系（脳血管障害患者の看護） (脳梗塞(TIA含む)、脳出血、クモ膜下出血(水頭症含む) 脳腫瘍)		講義		
6	脳・神経系（脳神経障害患者の看護） (パーキンソン症候群)		講義		
7	骨格系（高齢者の骨折、骨粗鬆症、大腿骨頸部、転子部 骨折の看護、牽引の看護）		講義		
8	骨格系（変形性脊柱症と変形性膝関節症の看護）		講義		
9	骨格系（関節リウマチの看護） ※手術療法を受ける高齢者の看護を含む		講義		
【 使用テキスト 】			【参考文献・紹介文献】		
老年看護学 病態・疾病論 成人看護学10(運動器) 成人看護学 7(脳・神経) 成人看護学13 (眼) 成人看護学14 (耳鼻咽頭) 成人看護 学12 (皮膚)					
【 評価方法 】					
筆記試験 ①②30点 ③④30点 ⑤⑥15点 ⑦⑧15点 ⑨10点					

2025年度

授業科目	老年看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①専任教員 ②非常勤講師 (看護師)	所属	①看護学校 ②病院	実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.高齢者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
2.さまざまな健康状態や受領状況に応じた高齢者と家族の看護について理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容		授業方法		講師
10	感覚器系（褥瘡の看護）		講義		②
11	感覚器系（皮膚疾患のある高齢者の看護） （白癬、疥癬）		講義		
12	感覚器系（耳鼻疾患のある患者の看護） （舌がん、咽頭、喉頭がん、突発性難聴、メニエール病 副鼻腔炎）		講義		
13	感覚器系（眼疾患のある患者の看護） （白内障、緑内障、加齢黄斑変性、糖尿病性網膜剥離）		講義		
14	高齢者の疾患の特徴(感染症) （MRSA感染症、ノロウイルス感染症）		講義		②
15	終了試験				
【 使用テキスト 】			【参考文献・紹介文献】		
【 評価方法 】					

2025年度

授業科目	老年看護の展開技術	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①非常勤講師(看護師) ②専任教員	所属	①病院 ②看護学校	実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 多様な場で生活している高齢者の看護を実践するために必要な技術を習得する。					
2. 高齢者の健康を守るための現在の保健・医療・福祉システムの問題点を把握し、望ましい在り方を考える。					
3. 高齢者と家族の健康上の問題を把握し、それぞれの生活条件に応じた看護の展開技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	高齢者リハビリテーションの看護(概論、中枢神経系)	講義 演習	①		
2	高齢者リハビリテーションの看護(慢性閉塞性肺疾患、虚血性心疾患)	講義 演習			
3	高齢者リハビリテーションの看護(脳血管障害、骨折) 退院調整、退院支援	講義 演習			
4	高齢者リハビリテーションの看護(摂食嚥下)	講義 演習			
5	高齢者の特徴とアセスメントの基本 高齢者総合機能評価(CGA)	講義 演習	②		
6	高齢者のフィジカルアセスメント	講義 演習			
7	家族のアセスメント	講義 演習			
8	保健医療福祉施設および居住施設における看護	講義 演習			
9	治療、介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 多職種連携実践による活動	講義 演習			
10	多様な場で生活する高齢者の看護 事例展開(脳梗塞後遺症) オリエンテーション 記録用紙	講義 演習			
11	多様な場で生活する高齢者の看護 事例展開 記録用紙 2・3	講義 演習			
12	多様な場で生活する高齢者の看護 事例展開 記録用紙 4・5	講義 演習			
13	多様な場で生活する高齢者の看護 事例展開 記録用紙 6 発表準備	講義 演習			
14	多様な場で生活する高齢者の看護 発表	講義 演習			
15	多様な場で生活する高齢者の看護 まとめ(45分)	講義 演習			
16	終了試験(45分)				
【 使用テキスト 】			【参考文献・紹介文献】		
老年看護学 医学書院			高齢者看護の実践 老年看護学② ナーシンググラフィカ		
【 評価方法 】					
筆記試験 70点					
実技試験 30点					

2025年度

授業科目	老年看護学実習	時期	第 2 学年	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	老年看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、成人各期の特性に応じた適切な看護を行う能力を養う。				
実習目標	1. 慢性期または終末期にある老年期の患者及び家族の特徴を理解できる。 2. 慢性期または終末期にある老年期の患者及び家族の看護ができる。 3. 慢性期から終末期にある老年期の患者の各系統の障害に応じた看護ができる。 4. 慢性期にある老年期の患者の治療・処置・検査時の看護ができる。 5. 慢性期または終末期にある老年期の患者をとりまく医療チームにおける看護の役割を理解できる。				
到達目標	1) 慢性期にある老年期の患者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 2) 慢性期にある老年期の患者を抱えた家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 3) 慢性期にある老年期の患者の苦痛の緩和の援助ができる。 4) 慢性期にある老年期の患者の残存機能を考慮した日常生活の援助ができる。 5) 慢性期にある老年期の患者・家族への保健指導ができる。 6) 慢性期にある老年期の患者を抱えた家族への援助ができる。 7) 慢性期にある老年期の患者の検査・処置・治療時の援助ができる。 8) 慢性期にある老年期の患者に関わる保健・医療・福祉チーム・関連機関における看護師の役割を説明できる。 9) 保健医療福祉チーム・関連機関との連絡調整の方法が説明できる。 10) 慢性期にある老年期の患者に必要な社会資源の活用仕方について説明できる。 11) 終末期にある老年期の患者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 12) 終末期にある老年期の患者を抱えた家族の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 13) 終末期にある老年期の患者の身体的な苦痛緩和の援助ができる。 14) 終末期にある老年期の患者の精神的援助ができる。 15) 終末期にある老年期の患者の日常生活の援助ができる。 16) 終末期にある老年期の患者を抱えた家族の支援ができる。 17) 危篤状態にある患者と家族の援助方法を説明できる。 18) 死亡時の援助方法を説明できる。 19) 終末期にある患者に関わる医療チームを説明できる。 20) 医療チームとの連絡調整の方法を説明できる。 21) 高齢者を尊重した接し方ができる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	老年看護学実習 [実習施設]山形病院 [実習期間]2024年11月～2025年3月のうち10日間 [実習内容・実習方法] 1. 患者1名を受け持ち、看護過程を展開を行う。 2. 受け持ち患者が決定していない場合には、他患者の援助を看護師と共に行う。 3. 事前学習は「6.事前学習」に準ずる。				
評価方法	実習評価は、「老年看護学実習評価表」を用いて行う。				
参考文献	随時紹介				

授業科目	小児看護学概論	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 小児看護の特徴と小児の成長発達を理解する。					
2. 小児期の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 小児看護の特徴と看護の役割	1) 小児看護の対象 ①子どもの特徴 ②小児期の区分と特徴 ③家族の特徴			講 義
2		2) 小児看護の目標と役割			講 義
3		3) 子どもと家族の諸統計 ①人口構造 ②出生と家族 ③子どもの死亡			講 義
4		4) 小児医療と小児看護の変遷と課題 5) 小児看護における倫理 (1) 子どもの権利 (2) 小児医療・看護における倫理的配慮			講 義
5	2. 子どもの成長発達の特徴と評価	1) 子どもの成長・発達 ①成長・発達の一般原則 ②成長・発達に影響する因子 ③発達課題			講 義
6		2) 子どもの成長発達のアセスメント ①成長の評価 ②発達の評価			講 義
7	3. 子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉	1) 児童福祉 2) 母子保健施策 3) 医療費の支援 (1) 小児慢性特定疾患医療費助成制度 4) 予防接種 5) 学校保健 6) 臓器移植法			講 義
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
奈良間美保他:系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院				授業の中で適宜紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	小児看護の方法Ⅰ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 小児期にある対象の身体的、精神・心理、社会的特徴を幅広く理解する。					
2. 小児期に起こりやすい健康問題と看護を理解する。					
3. 小児が健康な生活を営むために必要な看護の方法を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 小児各期の特徴と起こりやすい健康問題 1)小児各期の身体的特徴と起こりやすい健康問題				講 義
2	2)小児各期の精神・心理的特徴と起こりやすい健康問題 3)小児各期の社会的特徴と起こりやすい健康問題				講 義
3	2. 小児各期の成長発達に応じた生活の援助 3. 小児の健康増進、疾病予防のための看護 1)新生児・乳児期 (1)親子関係 (2)生活の特徴と世話 (3)遊びの支援 (4)育児支援				講 義
4	2)幼児期 (1)基本的生活習慣の確立と支援 (2)遊びと運動の支援 (3)特徴的な感染症と予防接種 (4)育児支援				講 義
5	3)学童期 (1)学校生活と友人関係 (2)学習と遊び (3)生活習慣病の予防 (4)疾病予防				講 義
6	4)思春期 (1)二次性徴 (2)思春期の健康教育 (3)問題行動の防止 (5)性教育 (6)家族支援				講 義
7	4. 子どもの事故と事故防止 1)事故防止 2)安全教育 3)スポーツ外傷の予防				講 義
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
奈良間美保他:系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院				講義の中で適宜紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	小児看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	①専任教員 ②③④⑤⑥⑦⑧⑨非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 健康障害がある小児と家族に対する看護について理解する。					
2. 小児の健康状態に応じた看護の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	1. 健康障害が小児と家族に与える影響と看護 1) 病気に対する子どもの理解と特徴 2) 病気や入院が子どもと家族に与える影響 3) 健康障害をもつ子どもと家族への看護 2. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護			講義	①
2	3. 健康障害をもつ小児家族への看護 1) 経過別看護 1) 急性期にある小児の看護 2) 周手術期の小児と看護 3) 慢性期にある小児の看護 4) 終末期の小児と家族の看護			講義	
3	2) 生活制限のある小児と家族の看護 3) 障害のある小児と家族の看護			講義	
4	4. 疾患に応じた子どもと家族への看護 1) 先天異常の患児の看護 1) ダウン症候群の小児の看護 2) ターナー症候群の小児の看護			講義	②
5	2) 感染症患者の看護 1) 麻疹の小児の看護 2) 風疹の小児の看護 3) インフルエンザの小児の看護 3) 呼吸器疾患患者の看護 1) 気管支喘息の小児の看護 2) 肺炎の小児の看護			講義	
6	4) 血液疾患患児の看護 1) 出血傾向のある小児の看護 2) 白血病の小児の看護			講義	③
7	5) 骨・筋系疾患 1) 先天性股関節脱臼の小児の看護 6) 感覚器疾患患児の看護 1) アトピー性皮膚炎の小児の看護			講義	④

授業科目	小児看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	①専任教員 ②③④⑤⑥⑦⑧⑨非常勤講師			実務経験 有無	有
8	7)神経疾患患児の看護 (1)てんかんの小児の看護 (2)脳性まひの小児の看護 (3)重症心身障害児の小児の看護			講義	⑤
9	8)消化器疾患の患児の看護 (1)口唇・口蓋裂の小児の看護 (2)肥厚性幽門狭窄症の小児の看護 (3)鎖肛の小児の看護 (4)乳幼児下痢症の小児の看護			講義	⑥
10				講義	
11	9)腎・泌尿器疾患患児の看護 (1)糸球体腎炎の小児の看護 (2)ネフローゼ症候群の小児の看護			講義	⑦
12	10)代謝・内分泌疾患患児の看護 (1)糖尿病の小児の看護			講義	⑧
13	11)循環器疾患患児の看護 (1)ファロー四徴症の小児の看護 (2)川崎病の小児の看護			講義	⑨
14				講義	
15	終了試験				
【 使用テキスト 】 奈良間美保他:系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院、2020 :系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論、医学書院				【参考文献・紹介文献】 授業の中で適宜紹介	
【 評価方法 】 筆記試験(100点)					

授業科目	小児看護の展開技術	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 成長・発達にふさわしい遊びを実践するために、健康な乳幼児の成長発達を理解し、その援助を考える。					
2. 対象のニーズに応じた看護を実践するために必要な小児の看護技術を習得する。					
3. 医療施設に入院している小児と家族の健康上の問題を把握し、発達段階に応じた看護過程の展開技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 乳幼児の発達段階に合わせた玩具の作成等遊びの工夫 1) 玩具作成				演 習
2	2) 遊び方の工夫				演 習
3	2. 病気に対する子どもの理解と説明 1) インフォームドアセント 2) プレパレーション				講 義
4	3. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 1) 子どものアセスメント 2) バイタルサイン測定 3) 身体計測 (45分)				講 義
5	4) バイタルサイン測定・計測の実際				演 習
6	5) 採血・採尿 6) 骨髄穿刺 7) 腰椎穿刺 8) 与薬 9) 吸入 10) 吸引 11) 酸素療法 12) 経管栄養				講 義
7	13) 注射 14) 輸液療法(輸液ポンプの取り扱い含む)				講 義
8	15) 点滴静脈内注射を受ける子どもの看護の実際 (安全・安楽確保の技術、輸液ポンプの操作・管理含む)				演 習
9	4. 特別な状況にある子どもと家族への看護 1) 虐待を受けている子どもと家族への看護 2) 災害を受けた子どもと家族への看護				講 義
10	5. 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 1) 子どもの一次救命処置 2) 気道内異物除去法 3) 子どもの熱傷の特徴と処置 4) 溺水と処置				講 義
11	6. 事例による看護過程の展開(気管支喘息)				演 習
12					演 習
13					演 習
14					演 習
15					演 習
16	終了試験(45分)				筆記試験
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
奈良間美保他:系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院 山元恵子:写真でわかる小児看護技術アドバンス、インターメディカ				授業の中で適宜紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験、玩具製作、看護過程課題、レポート等で総合的に評価する					

授業科目	小児看護学実習	時期	第3学年	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	小児看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、小児看護の対象を理解し、成長発達段階に応じた看護を行う能力を養う。				
実習目標	1. 小児看護の対象を理解できる。 2. 小児看護の対象を捉え、成長八発達段階に応じた看護ができる。 3. 小児看護に必要な保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を理解できる。				
到達目標	保育園実習 1. 健康な小児の成長発達に伴う身体的、精神・心理的、社会的特徴を理解できる。 2. 乳幼児期に起こりやすい健康上の問題を理解できる。 3. 乳幼児期の成長発達段階に応じた基本的生活習慣獲得のための援助が理解できる。 4. 乳幼児期の成長発達段階に応じた遊びの援助が理解できる。 5. 乳幼児期に起こりやすい事故と事故防止が防止できる。 6. 成長発達段階に応じた日常生活指導と健康保持増進の方法を家族に説明することの必要性が理解できる。 小児外来実習 1. 外来を訪れる子どもを理解できる。 2. 外来を訪れる子どもと家族が抱きやすい不安について理解できる。 3. 子どもと家族の不安に対する援助が理解できる 4. 子どもの症状に対する援助が理解できる。 5. 処置・検査をうける子どもと家族の援助が理解できる。 6. 長期療養が必要な子どもと家族の援助ができる。 7. 健康診査を受ける子どもと家族の援助ができる。 8. 予防接種を受ける子どもと家族への援助が理解できる。 9. 小児をとりまく多職種がわかる。 10. 小児を取り巻く多職種との連携と看護の役割がわかる。 小児病棟実習 1. 患児の健康障害の程度・治療について理解できる。 2. 患児の成長発達段階が理解できる。 3. 患児の日常生活について理解する。 4. 健康障害のある子どもと家族に必要な援助を考えることができる。 5. 患児の状態にあわせた援助を選択できる。 6. 患児の健康状態に合わせた方法で実施できる。 7. 小児を取り巻く医療チームの連携、社会資源の活用が理解できる。 8. 子どもの入院生活を支えよりよい成長発達を促す看護の必要性が理解できる。				
授業計画	学習目標・学習内容・学習方法				
	保育園 [実習施設] 保育園 [実習期間] 2024年5月～10月のうち4日間 [実習内容・実習方法] 1. 毎日違う年齢のクラスを担当し、健康な小児の成長発達の過程を学ぶ。 2. 園児と一緒に遊び、さまざまな年齢の園児とコミュニケーションを図る。 3. 保育士の指導を受けながら保育を行う。 4. 園児をとりまく人々(家族・保育士・看護師)のかかわりを学ぶ。 5. 実習期間中に行事などがある場合は一緒に参加する。 6. 実習最終日にカンファレンスを行う。				
	小児外来実習 [実習施設] 大学医学部附属病院小児外来 [実習期間] 2024年5月～10月のうち2日間 [実習内容・実習方法] 1. 診察・検査・処置とその解除の見学、指導・説明の見学を行う。 2. 各健康発達段階の特徴を踏まえて患者、家族とコミュニケーションを取る。				
評価方法	小児病棟実習 [実習施設] 大学医学部附属病院 小児病棟 [実習期間] 2024年5月～10月のうち4日間 [実習内容・実習方法] 1. 子ども1名を受け持ち、子どもの成長発達・回復過程にあわせた援助計画を立案し指導を受けてから実施する。 2. 実習中は実習指導者および当日の子どもの受け持ち看護師に指導を受ける。 3. 子どもに援助を行うときは、指導者または看護師の助言や監督のもとで実施する。 4. 他患者の検査等の見学を行う際は、実習指導者に相談のうえ、自己学習して臨む。 5. 最終日に、実習の学びについてカンファレンスを実施する。				
	実習評価は「小児看護学実習 評価表(こども園実習)」「小児看護学実習 評価表(小児外来)」 「小児看護学実習 評価表(小児病棟)」をそれぞれ用いて行う。 保育園・小児外来・小児病棟実習合わせて計100点で評価する。				
参考文献	随時紹介する				

2025年度

授業科目	母性看護学概論	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 母性看護の対象の身体的、心理的、社会的特徴を幅広く理解する。					
2. 母性看護の対象に起こりやすい健康問題を理解する。					
3. 母性看護の対象の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	母性看護の基礎となる概念 女性のライフサイクル、母性の発達・成熟・継承				講 義
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母性保健統計からみた動向				講 義
3	看護に関する法律と施策				
4	リプロダクティブヘルスケア ・リプロダクティブヘルス/ライツ ・母性看護における倫理 ・避妊・性感染症				講 義
5	母性看護の対象理解 ・性の分化・性周期とホルモン動態				講 義
6	女性のライフステージ各期における看護 月経随伴症状 ・女性生殖器疾患 喫煙・飲酒・薬物				講 義
7	女性のライフステージ各期における看護 更年期女性の特徴 ・更年期障害と看護				講 義
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向					
【 評価方法 】					
筆記試験100点					

2025年度

授業科目	母性看護の方法Ⅰ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 正常な妊娠期、分娩期、産褥期の看護方法を理解する。					
2. 正常な新生児期の生理と看護を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	胎児の発育とその生理				講義
2	妊娠期の身体的特性				講義
3	妊娠期の心理・社会的特性				講義
4	妊婦と胎児のアセスメント・看護				講義
5	分娩の要素				講義
6	分娩経過				講義
7	産婦・胎児・家族のアセスメント				講義
8	分娩期の看護				講義
9	産褥経過、褥婦のアセスメント				講義
10	産褥期の看護				講義
11	新生児の生理・アセスメント				講義
12	新生児の看護				講義
13	妊婦・褥婦・新生児の看護技術				演習
14	妊婦・褥婦・新生児の看護技術				演習
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院 新改訂写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ					
【 評価方法 】					
筆記試験100点					

2025年度

授業科目	母性看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.妊娠、分娩、産褥期の異常と看護を理解する					
2.新生児の異常と看護を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	妊娠期の異常と看護① ハイリスク妊娠・ハイリスク妊婦の看護				講 義
2	妊娠期の異常と看護② 妊娠期の感染症				講 義
3	妊娠期の異常と看護③ 妊娠疾患				講 義
4	妊娠期の異常と看護④ 多胎妊娠 異所性妊娠(子宮外妊娠) 妊娠持続時間の異常				講 義
5	分娩期の異常と看護① 産道の異常 娩出力の異常				講 義
6	分娩期の異常と看護② 胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常				講 義
7	分娩期の異常と看護③ 胎児機能不全 分娩時の損傷				講 義
8	分娩期の異常と看護④ 分娩第3期および分娩直後の異常 分娩時異常出血 産科処置と産科手術				講 義
9・10	分娩期の異常と看護⑤ 異常のある産婦の看護 異常分娩時の産婦の看護 分娩時異常出血のある産婦の看護				講 義

2025年度

回数	授業内容	授業方法
11	産褥期の異常と看護 子宮復古不全 産褥期の発熱 産褥血栓症 精神障害 異常のある褥婦の看護	講 義
12		
13		
14	新生児の異常と看護① 新生児仮死児 分娩外傷 低出生体重児 高ビリルビン血症 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症	講 義
15	終了試験	
【 使用テキスト 】 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院		【参考文献・紹介文献】 授業で随時紹介
【 評価方法 】 筆記試験100点		

2025年度

授業科目	母性看護の展開技術	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①専任教員 ②非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.母性看護の対象に必要な看護技術を習得する					
2.健康状態に応じた周産期看護の展開技術を習得する					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	1. 妊娠期の看護技術 1)妊婦健康診査の実際 2)妊婦健康診査での妊婦への介助と教育(保健指導)			講 義・演 習	①
2	2. 分娩期の看護技術 1)産痛緩和法・マッサージ法 2)呼吸法 3)レオポルド触診法・児心音の聴取 3. 産褥期の看護技術 1)悪露交換 2)子宮底測定 3)乳頭・乳房マッサージ 4)産褥体操			講 義	②
3	4. 周産期の看護技術の実際 1)妊婦体験 2)レオポルド触診法 3)乳頭・乳房マッサージ 4)産褥体操 5)退院指導			講義・演習	①
4	5. 不妊治療と看護 1)不妊検査と治療 2)不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 3)不妊治療によって妊娠した女性、家族への看護 4)不妊治療の終結にかかわる看護			講 義・演 習	②
5					
6	6. 新生児期の看護技術 1)身体計測 2)児の抱き方 3)おむつ交換 4)産着の着脱 5)沐浴(技術試験) 6)黄疸の観察			講 義・演 習	①
7					
8					
9	7. 正常褥婦の看護過程 1)ウェルネス思考を用いた看護過程(事例紹介・情報整理) 2)妊娠期～分娩期のアセスメント 3)産褥期のアセスメント 4)問題抽出、看護計画立案 5)看護計画の実施・評価、まとめ			講 義・演 習	①
10					
11					
12					
13	8. 切迫早産妊婦の看護過程			講 義・演 習	②
14	9. 帝王切開術を受けた褥婦の看護過程				
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院 新改訂写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ				授業で随時紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験100点					

2025年度

授業科目	母性看護学実習	時期	第2学年	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員			実務経験 有無	無
実習目的	母性看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、周産期の経過に応じた看護を行う能力を養う。				
実習目標	正常な妊婦の看護 1. 正常な妊娠期の経過に応じた看護が理解できる。 2. 正常な分娩各期、産褥期の看護および経過に応じた新生児の看護ができる。 正常な産褥婦の看護 1. 分娩各期の徴候を理解でき、産婦の状態に応じた看護ができる。 2. 産褥期の正常経過に応じた看護ができる。 3. 出生直後の新生児および早期新生児期の看護ができる。 4. 産褥婦・新生児に行われる主な検査、処置時の看護ができる。 5. 産褥婦・新生児に起こりやすい異常と看護が理解できる。 6. 妊産褥婦・新生児の看護に必要な保健・医療・福祉チームの連携について理解できる。				
到達目標	正常な妊婦の看護 1. 母体と胎児の観察ができる。 2. 妊娠週数に応じた指導ができる。 正常な産褥婦の看護 1. 産褥期の正常の経過が説明でき、観察ができる。 2. 正常産褥婦の援助ができる。 3. 新生児の生理的現象(変化)が説明でき、観察ができる。 4. 出生直後の新生児の看護ができる。 5. 早期新生児の看護ができる。 6. 妊婦・産婦・新生児の主な検査の種類と目的が説明できる。 7. 検査の準備と介助、検査後の援助ができる。 8. 処置の介助ができる。 9. 産褥・産婦におこりやすい異常と看護が説明できる。 10. 帝王切開を受ける産婦の看護が説明できる。 11. 新生児に起こりやすい異常と看護が説明できる。 12. 産褥・新生児の看護に必要な保健・医療・福祉チームが説明できる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	[実習施設]: 大学医学部附属病院 [実習期間]: 2024年7月～2025年3月 [実習内容・実習方法] 産科外来 1. 2日間で、妊娠初期から後期にある妊婦の、妊婦健診・保健指導について学ぶ。 産科病棟 1. 1週目は、助産師のシャドーイングを行い、看護の実際を学ぶ。 2. 2週目は正常産褥婦を原則1名受け持ち看護過程の展開を行う。 1) 原則正常の産褥婦を受け持つが、帝王切開による産褥婦や入院中の妊婦を受け持つ場合もある。 3. 受け持ち産褥婦の児の看護援助を行う。				
実習評価	実習目標の到達度、実習態度、記録などを総合し、「母性看護学実習評価表」を用いて評価する。				
参考文献	随時、紹介する。				

2025年度

授業科目	精神看護概論	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 心のはたらきと人格の形成を理解する。					
2. 人間を取り巻く関係性を理解する。					
3. 精神保健の基本と保持・増進に向けた看護の役割を理解できる。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	精神看護の対象 精神保健の考え方				講 義
2	人間の心の働きとパーソナリティー				講 義
3	人間の心の働きとパーソナリティー				講 義
4	関係のなかの人間				講 義
5	社会の中の精神障害				講 義
6	精神看護の役割 精神看護学とその課題				講 義
7	リエゾン精神看護				講 義
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験					

2025年度

授業科目	精神看護の方法Ⅰ	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 精神障害を持つ人へのケアの基本と関係性を理解する。					
2. 地域における精神保健について理解する。					
3. 看護師のメンタルヘルスについて理解する。					
回数	授業内容				授業方法
1	ケアの人間関係 ケアの前提・ケアの原則・ケアの方法				講 義
2	関係をアセスメントする				講 義
3	プロセスレコードの共有				講 義
4	地域におけるケアと支援 1. 学校におけるメンタルヘルスと看護				GW
5	地域におけるケアと支援 1. 学校におけるメンタルヘルスと看護 2. 職場におけるメンタルヘルスと看護				講 義
6	災害時のメンタルヘルスと看護				講 義
7	看護における感情体験と看護師のメンタルヘルス 感情労働としての看護 看護における共感の光と影 感情労働の代償と社会 レジリエンスを高める				講 義
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	精神看護の方法Ⅱ	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間	
講師名	①非常勤講師 ②専任教員				実務経験有無	有
【 科目目標 】						
1. 精神看護の対象に対する看護について理解する。						
【 内容 】						
回数	授業内容			授業方法	講師	
1	患者一看護師関係における感情体験			講 義	②	
2	安全をまもる 1. リスクマネジメントの考え方と方法			講 義		
3	安全をまもる 2. 緊急事態に対処する			講 義		
4	身体をケアする 1. 精神科における身体のケア			講 義		
5	身体をケアする 2. 精神科における身体ケアを通した看護ケアの実際			講 義		
6	身体をケアする 3. 精神科の治療に伴う身体ケアと身体合併のアセスメントケア			講 義		
7	回復を支援する 1. 回復の意味 2. リカバリーのビジョン 3. 治療におけるリカバリーの試みと看護の視点 4. リカバリーを促す環境 5. リカバリーを促す方法としてのグループ			講 義	①	
8				講 義		
9				講 義		
10				講 義		
11				講 義		
12				講 義		
13	医療の場におけるメンタルヘルスと看護 1. リエゾンナースの活動と実際 ①精神疾患をもつ患者が一般病棟で治療を受けるとき ②術後の患者にせん妄がみられるとき ③痛みのために「死にたい」と訴えているとき ④怒りで患者がチームを分裂させるとき			講 義		
14				講 義		
15	終了試験					
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】		
①:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院						
②:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1、医学書院						
【 評価方法 】						
筆記試験						

授業科目	精神看護の展開技術	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間	
講師名	①②非常勤講師 ③専任教員				実務経 験有無	有
【 科目目標 】						
1. 患者-看護師間の対人関係を理解し自己洞察の必要性を理解する。						
2. 精神障害を抱える患者の回復を見据えた支援方法を理解できる。						
3. 問題解決技法を用いて、精神看護の展開技術を習得する。						
【 内容 】						
回数	授業内容			授業方法	講師	
1	精神看護と対人関係理論、プロセスレコードの実際			講 義	①	
2	精神症状のある患者への看護①病的爽快感(躁状態)			講 義		
3	精神症状のある患者への看護②抑うつ気分(うつ状態)			講 義		
4	精神症状のある患者への看護③幻覚妄想状態			講 義		
5	精神障害者の社会復帰(GW)			講 義・GW		
6	社会生活技能訓練(SST)とは			講 義・演 習	②	
7	統合失調症患者の事例による看護過程の展開			講 義	③	
8			GW			
9			GW			
10			GW			
11			GW			
12			GW			
13			GW			
14	発表準備・発表		GW			
15	発表・終了試験(1時間)					
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】		
①②:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院						
③: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1、医学書院						
【 評価方法 】						
聴講態度、筆記試験、提出物						

2025年度

授業科目	精神看護学実習	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	無
実習目的	精神看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、精神に障がいのある患者に適切な看護を行う能力を養う。				
実習目標	1. 健康な心の発達について理解し、各発達段階に起こりやすい精神の健康問題を把握できる。 2. 精神に障がいのある患者の看護ができる。 3. 精神に障がいのある患者の看護を行うために必要な保健・医療・福祉チームの連携のしかたを理解できる。				
到達目標	1) 精神に障がいのある患者とのコミュニケーションをとることができる。 2) 患者の観察ポイントと観察時の留意点が説明できる。 3) 精神に障がいがある患者の主な症状についての看護ができる。 4) 精神に障がいがある患者に行われる主な検査と、その検査を受ける患者の看護ができる。 5) 精神に障がいがある患者に行われる主な治療法とそれらの治療を受ける患者の看護ができる。 6) 入院生活における行動制限が患者に及ぼす影響を考慮して生活環境を整えることができる。 7) 精神科で起こりやすい事故と事故発生時の対処のしかたを説明できる。 8) 精神に障がいのある患者の社会復帰への看護が説明できる。 9) 精神に障がいのある患者の看護に必要な保健・医療・福祉チームの連携の必要性が説明できる。 10) 緊急時の連絡のとり方が説明できる。				
授業計画	学習課題・学習内容・学習方法				
	精神看護学実習 [実習施設] 病院 [実習期間] 2024年8月～9月 10日間 [実習内容・実習方法] 1. 患者1名を受け持ち、看護過程を展開し必要な援助を実施する。 2. 病棟ごとに特徴が異なるため、他病棟の特徴を学習する機会を持つ。(ディケア・SST・保護室などの見学・参加) 3. 事前学習は以下の内容について学習を行う。 1) 疾患の病態生理と看護について(病態関連図、検査、診断含む) 2) 疾患の症状と看護について 3) 薬物の作用と副作用について 4) 精神に障害を持つ患者に必要な社会制度・資源について 5) 入院形態について				
評価方法	実習評価は、「精神看護学実習評価表」を用いて行う。				
参考文献	随時紹介				

2025年度～

授業科目	看護管理	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師 ① ② ③ ④			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。					
2. 国際社会における健康と看護の動向を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	1. 看護マネジメント 1) 看護におけるマネジメント 2) ケアのマネジメント (1) 看護基準と看護手順 (2) 安全管理 (3) 看護ケア提供システム (4) 他職種との協働 (5) 情報の管理			講 義	①②
2	3) 看護サービスのマネジメント (1) 看護ケア提供システムと看護単位 (2) 看護単位の機能と特徴 (3) 人事労務管理 (4) 労使関係管理 (5) 物的資源管理 (6) 情報のマネジメント (7) 看護職員のキャリア開発 (8) 安全管理 (9) サービスの評価			講 義	
3	4) マネジメントに必要な知識と技術 (1) マネジメントとは				

2025年度～

授業科目	災害看護	時期	第3学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師① ② ③			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 災害時における人々の健康を支えるために必要な基礎的知識と看護師の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1・2・3	1. 災害看護の基礎的知識 1) 災害医療について (1) 災害の定義 (2) 災害の種類と健康障害 (3) 災害医療の特徴 (4) 災害と情報 (5) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 (6) 災害と法 (7) 国内の救助活動の現状と課題 2) 災害看護について (1) 災害看護の定義と役割 (2) 災害看護の対象 (3) 災害看護の特徴と看護活動 3. 地震災害看護の展開 (1) 発災直後から出動までの看護 (2) 急性期の看護 (3) 亜急性期の看護			講 義	①
4・5・6・7	2. 防災と災害時対応 1) 心肺蘇生法(BLS) ・普通救命講習Ⅱ (心肺蘇生法、AED使用法、止血法、異物除去、試験(筆記・実技)) 2) 防災体験 ・地震体験・煙体験・119番通報体験・消火体験 防災ビデオ			講義・演習	②救急救命士 ③消防隊員
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
浦田喜久子:看護の統合と実践{3}災害看護学・国際看護学 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験100点					

2025年度

授業科目	医療安全	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 医療安全とその取り組みについて理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	1. 医療安全の考え方を学ぶ 1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方			講 義	
2・3	2. 診療補助の事故防止 1) 患者に投与する業務における事故防止 (1) 注射業務 (2) 輸血業務 (3) 内服与薬業務 (4) 経管栄養(注入)業務 2) 持続中の危険な医療行為の観察管理における事故防止 (1) チューブ管理 3. 療養上の世話の事故防止 1) 転倒転落事故 2) 摂食・異食事故 3) 入浴中の事故			講 義	
4・5	4. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 5. 医療安全とコミュニケーション 6. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 (1) 職業感染 7. 組織的な安全管理体制への取り組み (1) 医療安全管理体制の概要 (2) 報告によるリスク把握-分析-対策体制			講 義	
6・7	8. 事例分析(演習) ヒヤリハット分析など			講義・演習	
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
浦田喜久子:看護の統合と実践{2}医療安全, 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験100点					

2025年度～

授業科目	臨床看護の実践	時期	第3学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 既習の知識、技術を統合し、対象に応じた看護を実践する能力を養う					
2. 安全・安楽でかつ対象に応じた看護技術を提供することができる					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	チームとは チームに必要な要素				講 義
2	業務遂行のためのマネジメント 複数患者を受け持つということ				講 義
3	多重課題とは、多重課題対処の原則 「多重課題1」①看護ケア提供システムについて学習				講 義・GW
4	「多重課題1」②複数患者の把握 ③看護計画立案				GW
5	「多重課題1」④受け持ち患者の情報整理 ⑤受け持ち決定				GW
6	「多重課題1」⑥タイムスケジュール作成				GW
7	「多重課題1」⑦シナリオ作成				GW
8	「多重課題1」⑧シミュレーション準備				GW
9	「多重課題1」シミュレーション				演習
10	「多重課題1」シミュレーション				演習
11	「多重課題1」振り返り				全体討議
12	「多重課題1」学んだことのまとめ・実習に向けての課題				GW
13	卒業時の到達度達成に向けた看護技術の習得 (模擬患者への実施) (5時間)				演習
14					
15					
16	筆記試験(45分)				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護管理					
【 評価方法 】					
①GWの取り組み…個人評価					
②多重課題1シミュレーション…グループ評価					
③筆記試験					

2025年度

授業科目	看護の統合と実践実習	時期	第3学年 第2学期	単位数 (時間)	2単位 90時間
担当教員	専任教員	所属	看護学校	実務経験 有無	有
実習目的	1. 複数の患者の受け持ち・看護チームの一員の体験・病棟管理者の役割の見学・夜間実習を通して、知識・技術・態度を統合し、看護実践力を身につける。				
実習目標	1. 優先順位と時間管理を考慮して、複数の患者に対する看護を実践できる。 2. 看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割について理解できる。 3. 病棟管理の実際を知り、病棟管理者の役割を理解できる。 4. 夜間実習の体験を通して、夜間の患者の状態・看護管理の実際を理解できる。				
到達目標	1. 患者を受け持ち、その日の行動計画を立案し、実施・評価できる。 2. 行動計画以外の事態が発生した時の対処方法を考えることができる。 3. チームの一員としての行動計画を立て実践できる。 4. チームメンバーの役割が説明できる。 5. チームリーダーの役割が説明できる。 6. 病棟管理の実際を説明できる。 7. 夜間の患者の状態と看護の実際を説明できる。				
	学習課題・学習内容・学習方法				
	〔実習施設〕： 山形病院 〔実習期間〕： 2024年9月～11月のうち10日間 〔実習内容・実習方法〕 1. 複数受け持ち患者の看護の実践 1) 実習初日、実習中に患者の情報収集を行う。 2) 看護上の問題、解決目標は病棟で立案されているものを参考にし、問題とした理由を学生がアセスメントする。 3) 複数の初日の朝、行動計画を発表し指導者に助言を受けながら、援助を実践する。 4) 行動計画以外の事態が発生した場合は、指導者に相談をする。 5) 当日実習終了時に指導者に報告し、捺印をもらう。 2. チームメンバーの役割 1) チームメンバーの役割前日までに、チーム内の患者の看護計画等を確認し把握する。 2) 当日朝、学びたいことを発表し、チームメンバーとともに行動する。 3) 当日、実習終了時に指導者に記録を提出し捺印をもらう。 3. チームリーダーの役割 1) チームリーダーの役割前日までに担当するチームを確認する。 2) チーム内の患者の状態とケアの把握をする。 3) 当日朝、学びたいことを発表し、チームリーダーとともに行動する。 4) 当日、実習終了時に指導者に記録を提出し捺印をもらう。 4. 病棟管理者の役割 1) 当日朝、学びたいことを発表し、看護師長とともに行動する。 2) 当日、実習終了時看護師長に記録を提出し捺印をもらう 5. 夜間実習 1) 夜間実習前日までに担当するチームを確認する。 2) 担当看護師が勤務に来るまで担当するチームの患者の把握を行う。 3) 学びたいことを発表し、夜間看護師とともに行動する。 4) 当日、実習終了時に指導者に記録を提出し捺印をもらう。				
実習評価	1. 評価は「看護の統合と実践実習 評価表」を用いて行う。				
参考文献	随時、紹介する				